

令和7年度第1回安城市総合教育会議

日 時 令和7年7月2日（水）
午後3時から午後4時10分
場 所 教育センター2階 会議室
出席者 市長 三星 元人
教育委員会 石川 良一 教育長
加藤 滋伸 教育長職務代理者
久恒 美香 委 員
深津 敦司 委 員
中村 沙織 委 員

出席する職員 林 武宏 企画部長
原田 浩至 企画部行革・政策監
長谷部 朋也 教育委員会教育部長
加藤 浩明 教育委員会生涯学習部長
太田 芳樹 企画部企画政策課長
久野 晃広 教育委員会総務課長
足立 雅之 教育委員会学校教育課長
杉浦 俊洋 企画部企画政策課課長補佐
野村 和彦 教育委員会学校教育課課長補佐
杉本 慎吾 教育委員会総務課庶務係長
服部 利範 教育委員会学校教育課研究係社会教育指導員
杉浦 直樹 教育委員会学校教育課研究係指導主事
神尾 龍也 企画部企画政策課企画政策係専門主査

傍 聴 者 3人

次 第

1 開 会

2 市民憲章唱和

3 あいさつ（要旨）

【三星市長】

教育委員の皆様には、日ごろから本市の教育行政に多大なる御理解と御支援を賜り、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

本日の議題は、「GIGAスクール構想の推進状況について」である。

委員の皆様の様々なお見識からご意見を賜りたい。よろしくお願いします。

【石川教育長】

三星市長には日ごろから教育行政、子どもたちや先生方について様々なご支援や心配をいただき感謝する。

本日の議題である GIGA スクール構想について、これは、本市が掲げる「安城教育グランドデザイン」において掲げる、「いのちの教育」、「個への支援」、「学び合い」の三つの柱を推進する上での効果的なツールとして有効活用している状況である。この後、具体的にこれまでの取組状況を説明させていただく。

安城市の子どもたちの豊かな未来につながる意見交換の機会となるよう、様々な視点からお気づきの点をご発言いただくことを期待する。よろしくお願いします。

4 議 題

議題（１）GIGAスクール構想の推進状況について

（学校教育課長説明）

※説明に加えて、現在各学校で使われているタブレットを使用して、学校で活用されている（試験導入中のものを含む）アプリケーションの操作体験が行われた。

【三星市長】

ただいまの説明に対してのご意見、ご質問等をいただきたい。

【久恒委員】

今年度から導入されたアプリケーションの利用状況を教えてください。

【学校教育課担当】

５月から順次導入がスタートしている。また、夏休み期間中に教員向け研修を重点的に実施していく予定であるため、本格的な稼働は２学期以降になると考えている。

【久恒委員】

長期休暇など、学校に通っていない時期でも稼働させていく方針か。

【学校教育課担当】

各校の判断になると思うが、詳細は把握していない。

機能的な話をすれば、Wi-Fi 環境下であれば相談したいという生徒側の意思表示と、教員側の確認は可能。

【久恒委員】

出来れば、「長期休暇中等でも先生はいつでも確認できる状態にあること」を子どもたちに伝えていただきたい。また、あわせて「先生といつでも繋がれる。いつでも誰かが相談にのる」という状況を作っていただけるとありがたいと考える。

【深津委員】

タブレットの使用について、メリットは数多くあると思うが、一気にタブレットが普及する中で、タブレット使用の比重が高くなっていると感じる。割り算の計算など、自分で紙に書いてやることとタブレットを利用することのどちらが子どもたちのためになっているかどうか調べていく必要があると思う。

なかなか評価は難しいかもしれないが、タブレットを使っている状況と使っていない状況を比較するような、あるいは、悪いところはないかを調べる計画があるか。

【学校教育課長】

今すぐ何らかの指標をもって評価するということは考えてない。

また、学校現場における活用状況であるが、学校を訪問する中、必ずしもタブレットの活用ばかりではないという印象を受ける。ご指摘のように思考回路を働かせながら、書くということも重要だと認識しており、タブレット一辺倒になるという考えは各校の先生方もこれに頼るということはないと考えている。バランスを取りながらやっていきたい。

【深津委員】

タブレットを活用する、しないの判断について、明確な結論がない限り難しく、現場においても、限られた時間の中で全ては対応しきれない部分があると思う。この点、何か計画がないと今後問題が発生するように思われるが、どのように考えるか。

【学校教育課担当】

先日、学校訪問して経験したことだが、児童生徒たちはタブレットを使うかどうか自分たちでやりやすい方法を判断している様子が見られた。判断は個々のものであり、いつも同じ対応をしているわけではないが、子どもたちも自ら考える力が養われていると感じている。

【深津委員】

非常に大切なことであると思う。このような事例を広めていってほしい。

【加藤職務代理者】

説明の中で、「オンライン授業」、「オンラインスクール」、「オンライン登校」という言葉があった。「オンライン授業」、「オンライン登校」という言葉はイメージが出来るが、「オンラインスクール」とは何か？

【学校教育課担当】

当初は、コロナ禍の中、不登校の児童生徒たちに何か支援できないかと始まった取組である。具体的には、ＳＳＷやふれあい学級の先生方を中心に、学校、教育センターに来られない児童生徒に対し、授業のようなものを提供する活動をしてきた。

当初、なかなか軌道に乗らなかったところであるが、ＧＩＧＡスクールの取組が進む中で、学校でも授業の様子が配信されるようになっていたので、今はオンラインスクールという取組は行っていない。

【加藤職務代理者】

ＧＩＧＡスクールの取組を進める中で、様々なツールを活用していただき、工夫いただいていることが伝わってきたが、これらのツールを併用することで、役割や機能が重複する部分が出ているのではないかな。この点に関する精査はどのように考えている。

【学校教育課長】

精査については、今後の検討課題としていく。

【加藤職務代理者】

取組が進む中で、今後は導入のフェーズから、ツールとして有効活用していくフェーズに移行していくことになると思う。様々な状況や場面に応じて効果的にＩＣＴツールを活用いただけるよう引き続き工夫をお願いしたい。

また、説明を聞いている中で子どもたちの学びだけでなく、子どもたちの心を守るため

の取組も、GIGAスクールの取組を進める中で取り入れてもらっているのは大変素晴らしいと思った。こちらも教員のスキルに働きかける取組と合わせて継続してほしい。市に対してお願いしたいのは、このGIGAスクール構想に係る取組はどうしてもお金がかかるものである。しかし、この取り組みの中で救われている子どもたちも必ずいるはずなので、引き続き支援をお願いしたい。

【中村委員】

導入当初において、先生方の負担は相当のものであったと説明を聞いて感じている。当時の先生方に改めて感謝する思いである。また、説明や体験を通じて思ったのは、AIを活用して、児童生徒にあわせた学習が個別に進められる学習アプリは、生徒が授業中退屈することもなく、非常に良いと感じた。現在は試験導入中とのことだが、ぜひ全校展開をお願いしたい。全校展開に関するスケジュールは決まっているか。

【総務課担当者】

全校展開が可能となるのは、全ての手続きが順調に進んだ場合、早くても令和8年末になると思う。

【三星市長】

学習アプリについて、費用が気になるところであるが、これから次年度の予算編成に向けた庁内手続きが進んでいくことになる。学校教育課において予算当局との折衝に耐えうる理論構築を進めてほしい。

また、学習アプリについて、個々の能力に応じて際限なく進めていくことができるのか。

【学校教育課担当】

機能・仕様の的には義務教育課程分を網羅している。それを超える場合は確認していないため不明。

【三星市長】

個々の能力においてどんどんチャレンジしていくことは良いと思うが、一方でそれにより授業に参加しない子が発生しかねないなど、現場における懸念はある。個人の私見として突出した能力をもつ、いわゆる「ギフテッド」の子どもたちを把握し、どんどん押し上げていくことは素晴らしいことだと思う。現行の日本ではなかなか飛び級対応は難しいと思うが、期待を抱かせる説明であったと感じた。

5 そ の 他

6 閉 会